

2000年8月15日

戦没船の母港・神戸の地に「戦没した船と海員の資料館」をオープン

○55回目の終戦記念日の8月15日、関西地方支部の2階ホールに「戦没した船と海員の資料館」がオープンした。この日の開設式典には、中西組合長・戦没船を記録する会の川島裕会長はじめ関係者200人余が集まり「海員不戦の誓い」として後世に伝える平和事業の完成を祝った。

式典では、多数の報道陣とテレビカメラの放列のなか、片岡中央執行委員（資料館開設委員長）のあいさつ、戦没船を記録する会から海員組合へ贈呈資料の目録の受け渡し、中西組合長・川島会長による「献辞」の朗読と続き、中西・川島の両氏と新古勝関西地方支部長の3名によるテープカットが、盛んなカメラのフラッシュのなかで行われた。その後、参加者に資料館が公開され、新聞報道などを見て駆けつけた戦没船員遺族の方々や一般の見学者も加わって、資料館は1日中大勢の人たちで賑わった。

昨年8月、アメリカの戦争に日本が協力する「周辺事態法」など日米新防衛協力指針（新ガイドライン）関連法が施行され、民間協力（法第9条関連）として米軍軍需物資の輸送などの協力が求められている。組合は「法の発動を許してはならない」とする立場から活動を進めているが、「戦没した船と海員の資料館」建設もこうした平和な海を希求する諸活動の大きく確かな一歩といえる。

（00年の「海員」9月号から転載。詳細は、「戦没した船と海員の資料館」のコーナーで紹介しています）

